

令和 7 年度 第 3 回 学校運営協議会 議事録

日程：2025 年 7 月 17 日（木）

時間：15 時 30 分～17 時 15 分

場所：第六中学校／第 1 応接室

参加：（委員）9 名＊オンライン参加 1 名含む

（教員）1 名＊協議項目 3. 担当者

（教育委員会／指導室）1 名＊オブザーバー

（事務局）1 名

進行：担当委員

記録：担当委員

文責：担当委員

報告・協議 ●報告と状況説明 ・感想や提案

1. ハーフパンツ導入を含めた校内の様子

【ハーフパンツ導入】

●取材いただき調布経済新聞で紹介された。

●いろんなスタイルがあり個々に選択して着用してほしい。

●学校だより『六中通信 百日紅』に、月毎の校内行事や実施した事柄を記載しているの、注目してほしい。

【六中アンケート】

●すべての項目で 85%以上が肯定的な回答。

●「一人ひとりの個性が尊重されている」が 1 年生 99.1%。

●大変高い結果が出た。これは、生徒の意識も反映されているのではないかと。

●昨年からの取り組みで、先生方にも考えや方向性が浸透していると感じる。

●人権教育の必要性を感じ進めている。

・特性を持っている生徒も、肯定的に感じていることが素晴らしい。

・MORI ルームを作ったり、目に見える形からの変化を先生や生徒に提示したりしていること、人権が大切ということを丁寧に繰り返しやってきたことが変化につながり、お互いに思いやり尊重する関係性が完成し学びあっているところが出来上がってきたのではないかと。

【校内の様子】

●学校全体があたたかいという声をよくいただく。先生方がキラキラしていて奇跡の職員室と思える。

- ・生徒発信のイベントは、昼休みに実施していることがほとんど。参加は、生徒の自由。授業内にこのような時間を取れるとさらに良いと思う。

【ジュニア研修部】

- 昨年度「ジュニア研修部」を設置した。
- 生徒がはっきり発言し、先生は嬉しそうに笑顔で聴き、温かい時間が作れている。
- 本校の研修に昨年度から伴走いただいている加賀市教育委員会事務局長の小林湧先生からは、「生徒がさらに授業作りに参加出来るよう、これからも発展させていきましょう」という助言をいただいた。
- 10月22日（水）14時40分からの研究協議会に委員も参加予定。

【個を尊重する授業】

- ジュニア研修部の声をもとに「意思カード」を作り授業に導入した。
 - ・個を尊重することは素晴らしい。同時に、個を尊重しながら同じ学びを進めていくことに無理はないのか？
- 生徒個々の理解度がバラバラなので確かに大変。いい授業をするための準備も大変。
- 生徒は、自己調整の時間は嬉しいという声がある中、2割くらいは「先生が教えてくれた方がいい」という声もある。
- 日本の授業は、「座っていれば答えを言ってくれるからラク」という声がある。フランスからの一時帰国生徒の話によると、フランスは先生が黒板に書いたテーマを生徒が個々に考える授業が中心とのこと。
- 生徒の回答が違うので、一斉授業の方が、負担が少ないという先生の声もある。
- 「自分で自分の学びを調整していく」この試みは、本校の研究発表が終わっても継続していく。

【人権教育授業】

- 1年人権教育授業「ちーむ・ぎゃろっぷとのダンス交流(教わってみんなで踊る)」を実施した。昨年度に続いて2度目。
 - (「ちーむ・ぎゃろっぷ」は、ハンディをもつ方々による調布市内のダンスチーム)
- 昨年度、「ちーむ・ぎゃろっぷ」の保護者からは、一般の中学校で実施する行事への参加について懸念する声もあったが、「ちーむ・ぎゃろっぷ」メンバーの参加の様子から意義を感じられ、今年度は8名の参加があった。
 - 中には、「学校休ませてでも行かせたい」というお考えもあり参加者が増えた。
 - 昨年参加した子は自由に回っていた。初回参加の子たちにも良い影響があった。
 - ・本校の1年生だけでなく「ちーむ・ぎゃろっぷ」のみなさんも楽しそうだった。
 - ・「ちーむ・ぎゃろっぷ」のみなさんが、とても自信をもって踊っていたし、生徒や先生方にも積極的に教えてくれていた。
 - ・ダンスで交流するのは、言葉を必要としないコミュニケーションの取り方であり、とても良いと感じた。

【着物着付け授業】

- 昨年度 11 月に行った授業を、今年は夏祭り前の 7 月に実施した。
- 着付けの先生方 7 名と保護者 4 名がサポート。2 年生が浴衣の着付けを学んだ。
- 授業後、踊りの先生にそのまま校内に残っていただき、昼休みに、体育館で炭坑節を教わり踊った。
- 国領地域の盆踊りに、学んだことを活かしながら参加すると楽しさが増す。
 - ・(着付けの先生の中には、) 受け身でいる生徒が多いという印象をもった方もいた。
 - ・受け身ということでは、授業外の学習支援の中でも感じることもある。サポートをしてほしいことに手を挙げにくい生徒が少なくない、と感じる。そんな多様な生徒たちの全員の学びを引き上げていく先生方の日常は、とても大変だと思う。地域の者、保護者がどんなサポートが出来るのか、継続的に積極的に考えていきたい。

2. 教員の「対話」研修に参加して

- ・良い学びになった。
- ・先生方が、今年度「対話」が大事だという目的に向かっていることが分かった。
- ・先生方全員が、一生懸命に参加されていると感じた。
また、先生以外の学校関係者（SSW の方など）も参加されて、学校や生徒に関わる者が一緒に研修を受ける大切さを感じた。

3. 本校のデジタル化／ICT 教育の現状と課題

- GIGA スクール構想で生徒全員に貸与している Chromebook は、自分の判断で使うものではなく、先生の指示がある時に使用する教具。
- 先生と生徒とのコミュニケーションツールとしての利用はしていない。
- 加えて、Chromebook を使用して生徒同士にどういったコミュニケーションが必要かは、これからの課題。
(補足)
- 美術の期末テストを、今回から CBT で実施して検証している。

4. 3. に関する質問と提案

- ・来年度から中学生も iPad になる計画はあるのか？
- 未定
- 美術科としては、iPad は嬉しいがタイピングに差が出るのではないかと。また、タブレットになることで、対応アプリなどに違いが生じる可能性がある。

【SNS の課題】

- 昨年度、不適切な使用があったので、情報モラル教育を入れている。
- 授業中の使用について、適切かどうかにはフォーカスしている。
- SNS の利用については、日ごろから話しているが、トラブルは尽きないのが現状。トラブルを未然に防ぐための教育が大切ではないかと進めている。

【調べ学習】

- コピーで済ませていることが多い。
- 調べた情報が、確かな情報かどうかを確かめるクセをつけることが必要。
- 間違った情報が生成 AI で表示され、そのまま提出している生徒もいる。
- 生徒には、調べた情報の出典を全て挙げるよう指導している。
 - ・普段の記事作成などの仕事で、AI は、ゼロから 1 を作り出すことは出来ないと感じている。最後に AI に校正をしてもらうことで削除される部分があり、その校正も含めて最終的により良いものを作るようにしている。
 - ・Chromebook やタブレット、そして AI とどう使うのが最適なのか答えは一つではない。どううまく付き合っていくのか。
 - ・六中の中でどう使用していくのがいいのか、継続的に考えていくのがよいのではないか。

5. 上記以外の課題（各委員、佐伯校長、北地副校長）

【保護者へのアンケート】

- 回答率が低い。
- 少数意見に引っ張られて取り組みが限定的にならないよう、より多くの声が望まれる。
- アンケートのタイミングに関わらず、必要な時に声を届けてほしい。
 - ・保護者へ、学校行事など校内の状況の認知度を高めていく必要を感じる。そこから、保護者からの意見を多く取り入れたい。

【本協議会の議事録】

- ・前は、議事録作成に長けていると思われる竹谷委員が記録を取り一次的なまとめを行った。それを、編集力に長けた塚松委員が仕上げた。
- ・今後は、出来るだけ省力化してまとめたい。
- ・協議会中に板書をしてそれを画像にして公開する方法もある。
- ・次回からは、自身のメモを元に会長が作成する。

連絡

1. 事務局より

- 次回の協議会は、10月30日（木）15時30分～

2. その他

【PTA より P 連の「教育懇談会」について】

- 今年度のテーマは「コミュニティ・スクール」
- PTA や学校管理職だけでなく、各校の委員の参加を依頼する予定。
- 日程は、12月10日（水）14時前後開始の想定。

以上